



豊後大野市小中一貫教育校緒方学園緒方中学校 学校だより

# 青雲の大志

令和7年3月11日

NO. 75 文責 校長 内海真理子

【学校教育目標】自他を尊重し、論理的な思考力と豊かな表現力で、粘り強く課題解決を図る生徒の育成



卒業生答辞 代表 五嶋愛実さん 佐藤敏希さん

3月7日（金）に第1回緒方学園緒方中学校卒業式（第25回豊後大野市立緒方中学校卒業式）が、たくさんのご来賓のご臨席を賜り、挙行できました。今年度は23名が学び舎を巣立ちます。見守り、励まして下さいました地域の皆様に改めて感謝申し上げます。皆様方へのお礼に変えて、[答辞の一部を紹介](#)します。

体育大会、中体連、文化祭、そして「いかに生きるか」について考えさせられた人権学習、記憶に残る最高のものにしようと、みんなで頑張ってきました。やがて、一人一人が自分の目標に向かうようになって、初めて卒業が近づいていくこと、これまでどんなにたくさんの人たちに支えられてきたのかに気づかされました。

「子どもたちのためなら」と、いつも協力してくださった**地域の皆さん**。ジオパーク学習では、今も生活に使われている石橋や円形分水など、先人の知恵に触れることができました。また、職場体験学習では、誰かの喜ぶ顔を生きかついに、生き生きと働かれている姿に、町の魅力は、こういう人たちなんだと気づくことができました。**皆さんのおかげでこの町で育ったことを誇らしく思いました。**

## 私からは卒業生に感謝を

[式辞](#)の中で、私からは、まず、卒業生に向けて、感謝の気持ちを伝えました。彼らは、私たちに様々な姿を見せてくれました。上履きをスリッパからシューズに変えてほしいと職員会議でプレゼントをした**凜々しい姿**、自分たちで作詞作曲した児童生徒会歌を緒方学園開校式で披露した**頼もしい姿**、一人一人が自分の役割を自覚し個性を輝かせながら創り上げた文化祭の全校劇、そこで見せた、**目立たないところでも頑張り抜く誠実さと責任感**は立派でした。差別の不合理さに憤り、人権の視点から自分たちにできることを考えた**真摯な学びの姿**、そして先日は、生徒総会で後輩に向けて、規律ある生活を求める、**大人びた姿**を見てくれました。これらの様々な姿は、後輩の良きお手本であると同時に、**私たち教職員に勇気と誇りを持たせてくれる姿**でした。「楽しくて力の付く学校づくり」を、先生方と一緒に進めてくれた卒業生に、私はたくさん感謝しています。

そして、気品と力強さを発揮して、どのような困難に出会っても、自分で考え、判断することを手放してはならないこと、学び続け、本当の自由の中で本当の愛を探し続ける人であってほしいという願いを述べました。



**送辞**では、部活動や生徒会活動で思いやりや強い意志を見せてくれた卒業生への感謝とともに、先輩方が創ってきた緒方中学校を引継ぎ、もっと盛り上げていきたいという決意も述べられました。その後、在校生全員で、佐藤武瑠さんの指揮、田上和篤さんの伴奏で「ハートのアンテナ」を元気よく合唱し、エールを贈る歌としました。

送辞を述べる在校生  
代表 大津京也さん